

人のうちに何があるか

ヨハネの福音書 2章 23-25節

はじめに

今日は、「ヨハネの福音書」からの説教となります。イエス様はユダヤ人にとって大切な祭りである「**過越の祭り**」を祝うため、エルサレムに来ておられました。「過越の祭り」は、その昔、エジプトで奴隷状態であったイスラエルの民が、神様によって解放されたことを記念する祭りです。「過越の祭り」は一夜限りの祭りですが、翌日から一週間、「種なしパンの祭り」が行われました。イエス様の時代、この「種なしパンの祭り」を含めた一週間を、「過越の祭り」と呼んでいたようです。

イエス様はこの「過越の祭り」の一週間の間、エルサレムで何をしていたのでしょうか。その一つは、前回ヨハネの福音書を学んだ時にお話したように、神殿の中で、細縄のむちで、いけにえの動物たちを追い出し、両替人の金を散らしたり、台を倒したりして、「**わたしの父の家を商売の家にしてはならない**」(ヨハネ 2:16)と言われたことです。イエス様にしては意外な、少し乱暴なことをされたのです。

もう一つは、今日の聖書箇所 23節にあるように、「**しるし**」を行われたことです。「しるし」とは、奇跡のことです。イエス様はおそらく病人を直したり、悪霊を追い出したりされたのでしょう。ここでの「しるし」は、ギリシヤ語の原文では複数形で書かれていますので、イエス様は多くの奇跡を行われたのでしょう。23節を見ると、「**多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた**」とあります。エルサレムにいる多くの人々が、イエス様の奇跡を見て、イエス様を信じるようになったのです。

1. 多くの人々はイエスを信じたが、イエスは彼らを信じなかった

しかし今日の聖書箇所の中心は、多くの人々がイエス様を信じたことにあるわけではありません。そうではなくて、多くの人々はイエス様を信じたけれども、イエス様は多くの人々を信じなかったという点にあるのです。24節には、こうあります。「**しかし、イエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった**」。ここでの「任せる」という言葉は、23節の「信じる」という言葉と同じ言葉が使われています。イエス様は、ご自分の奇跡を見て信じる人々を、信頼しなかったのです。

私たちは時々、聖書の時代のように、今も教会が多くの奇跡が行われれば、多くの人々がイエス様を信じるのに、と思わないでしょうか。多くの病気が、教会が行う奇跡によって癒されれば、多くの人々が教会に集まるようになるのに、と思わないでしょうか。しかし今日の聖書箇所 で明らかなように、イエス様は、奇跡によってご自分を信じる人々を、決して信

頼られないのです。

2. 人のうちに何があるかを知っておられた

なぜでしょうか。なぜイエス様は、奇跡によってご自分を信じる人々を、信頼されないのでしょうか。24-25節には、こうあります。「**すべての人を知っていたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。イエスは、人のうちに何があるかを知っておられたのである。**」イエス様は、すべての人の心の中に、何があるのかを知っておられたのです。誰からも教えられなくても、人間の心の中に何があるのかをよく知っておられたのです。

有名な聖書の言葉、Iサムエル 16：7には、「**人はうわべを見るが、主は心を見る**」とあります。私たち人間は、人の外側しか見ることができません。また人の外側から、人の内側、心の中を想像することしかできません。しかし神様には、人の内側、心の中を直接見ることができるのです。表情に現わさなくても、言葉を発さなくても、神様には、私たちの心の中が分かるのです。詩篇 139 篇に、「**主よ、あなたは私を探り、知っておられます。…あなたは、…遠くから私の思いを読み取られます。…ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはすべてのことを知っておられます**」(詩篇 139:1-4)とある通りです。

イエス様が、私たち人間の心の中をすべて知っておられるということは、イエス様こそ真の神様であるということに他なりません。私たち人間は、自分でさえ、自分の心の中のことをすべて知っているわけではありません。自分でさえ、自分の心が分からないということがあるのです。しかし真の神であるイエス様は、私たちの心の中のすべてを見抜き、知っておられるのです。

そのイエス様が、奇跡によってご自分を信じる人々の心の中を見て、彼らを信頼されなかったというのです。おそらく彼らの信仰が、御利益信仰だったからではないでしょうか。自分に利益があれば信じるけれども、自分に利益がなければ信じないという、自分に都合の良い信仰だったからではないでしょうか。御利益信仰の根底に流れているのは、自己中心です。神様が自分に良くしてくれれば信じるけれども、自分に良くしてくれないなら信じない、神様が病気を治してくれれば信じるけれども、治らないなら信じない、神様が経済的な貧しさから解放してくれるなら信じるけれども、貧しいままなら信じない、神様が悩みを解決してくれるなら信じるけれども、解決されないなら信じない、そういう信仰です。そのような信仰は、自己中心の性質を抱えたままの信仰です。そういう信仰の人々を、イエス様は信頼されないということではないでしょうか。

3. イエスが求める信仰

では、イエス様が求めている信仰とは、どういう信仰なのでしょう。またイエス様が信頼される人とは、どういう人なのでしょう。

その一つは、旧約聖書の「ヨブ記」の中に出てくるヨブのような信仰ではないでしょうか。ヨブは、全財産と愛する子どもたちを失った時、こう言いました。「**私は裸で母の胎から出て**

来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」(ヨブ記 1:21)。またヨブは、全身が病に侵された時、こう言いました。「**私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざ受けるべきではないか**」(ヨブ記 2:10)。ヨブは、全財産と愛する子どもたちを失い、全身の病に侵されても、神様を呪ったりしませんでした。ヨブは、そのような苦しみの中でも、神様を礼拝し、賛美することを止めませんでした。このように、たとえどのような状況でも、神様に対する信頼を捨てないこと、それこそイエス様が求めている信仰であり、イエス様に信頼される人ではないでしょうか。

では、ヨブのような心、ヨブのような信仰はどのように生まれるのでしょうか。旧約聖書のエレミヤ 17:9 には、こういう言葉があります。「**人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒しがたい。だれが、それを知り尽くすことができるだろうか**」。私たち人間の心は、アダムとエバが神様に背いて禁断の木の実を食べた時から、癒やしがたいほどねじ曲がっていると言うのです。自己中心という性質がべったりとこびり付いて離れないのです。私たち人間の心は、私たちではどうすることもできないのです。そのことを、神様はよくご存じなのです。

私たち人間の心は、私たちの努力ではどうすることもできないので、全く新しい心が必要なのです。そこで神様は、エゼキエル 36:26-27 で、このように約束されました。「**あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする**」。神様は私たちに、新しい心を与えると約束されています。その新しい心は、新しい霊によって与えられると言います。そしてその新しい霊、新しい心によって、私たちは神様に従って歩めるようになると言うのです。

今日の聖書箇所続き、3章1節以下には、「ニコデモ」という人の話が書かれています。ニコデモは、夜にイエス様のもとに訪ねて来てこう言います。「**先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません**」(ヨハネ 3:2)。ニコデモも、「過越の祭り」の間、エルサレムでイエス様のしるし、つまり奇跡を見た人でした。そしてイエス様を信じて、イエス様のもとに訪ねて来たのです。彼もまた、奇跡によってイエス様を信じる人であって、イエス様に信頼されない人であったのです。つまり彼もまた、御利益信仰の人であったのだと思います。

そんなニコデモに、イエス様は何と言われたでしょうか。イエス様は彼にこう言われます。「**まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません**」(ヨハネ 3:3)。イエス様は、同じことをこう言い換えておられます。「**まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません**」(ヨハネ 3:5)。私たち人間は、全く新しくされなければ、神の国に入ることはできないのです。人間の努力によって心を変えろとか、そういうレベルでは神の国に入ることはできないのです。聖霊によって、新しい心を与えられなければ、神の国に入ることはできないのです。なぜなら、私たちの心は、癒やしがたいほどねじ曲がっているからです。

奇跡によってイエス様を信じたニコデモに、イエス様は新しく生まれるように、聖霊によって新しい心を持つようにと言われるのです。御利益信仰のままではダメだと、自己中心の性質を抱えたままの信仰ではダメだと、聖霊によって新しく生まれて、新しい心を持つようにと言われるのです。

では、聖霊による新しい心を、私たちはどのように持つことができるのでしょうか。イエス様は、神殿でいけにえの動物を追い出し、両替人の金を散らしたり、台を倒したりした時、ユダヤ人たちにこう言われました。「**こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか**」(ヨハネ 2:18)。その時、イエス様はこう答えられました。「**この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれをよみがえらせる**」(ヨハネ 2:19)。これは、イエス様のからだのこと、つまり十字架と復活のことを言われたのです。

私たちが見るべき「しるし」は、病気の癒しや悪霊を追い出すなどの奇跡ではありません。それらを見ても、私たちの癒しがたいほどねじ曲がっている心は、決して変わらないのです。そのような奇跡を見てイエス様を信じる信仰は、結局、私たちの自己中心の性質の延長線上にあるものでしかなく、私たちの心を変え、全く新しくする信仰ではないのです。

私たちが見るべき「しるし」は、十字架と復活であり、私たちの癒しがたいほどねじ曲がっている心を変え、全く新しくするのも、十字架と復活なのです。十字架は、私たちの癒しがたいほどねじ曲がっている心のため、自己中心の性質がべったりとこびり付いた心のために、イエス様が裁きと呪いを受けてくださったものです。イエス様が十字架で裁きと呪いを受けなければならないほど、私たちの心は癒しがたいものなのです。

私たちは、奇跡を見ても、私たちの心は何も変わりません。十字架と復活を見る時、私たちの心は変えられ、新しくされるのです。自分の罪に目を向けなければ、自分の罪が取り扱われなければ、私たちの心は何も変わりませんし、神の国に入ることもできません。またイエス様に信頼してもらうこともできません。

十字架と復活を見て、私たちの癒しがたいほどねじ曲がっている心のために、イエス様が十字架で死に、復活されたことを信じる時に、私たちの心に聖霊が働き、新しい心を与えてくださるのです。

おわりに

イエス様を「信じる」とは、イエス様に「任せる」ことです。自分の人生を、自分自身を、イエス様に委ねて、「任せる」ことです。たとえどんな状況でも、どんな苦しみの中でも、イエス様に委ね、任せることです。そういう信仰こそ、イエス様は求めておられ、そういう人こそ、イエス様は信頼して、ご自分を任せてくださるのではないのでしょうか。

私たちは、イエス様を信じているかもしれませんが。しかしイエス様は、あなたを信じているのでしょうか。イエス様は、あなたを信頼しているのでしょうか。自己中心の性質を抱えたままの御利益信仰になっていないのでしょうか。自分の罪と十字架と復活をしっかりと見つめて、イエス様に信頼される信仰を、私たちも持ちたいものです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちの心は、聖書が言っている通り、癒やしがたいほどねじ曲がっています。自己中心の性質は、拭いきれないほど染みついています。どうかイエス様の十字架の血潮によって、洗い清めてください。聖霊によって新しい心を与えてください。

私たちが、イエス様に信頼される人となることができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。